

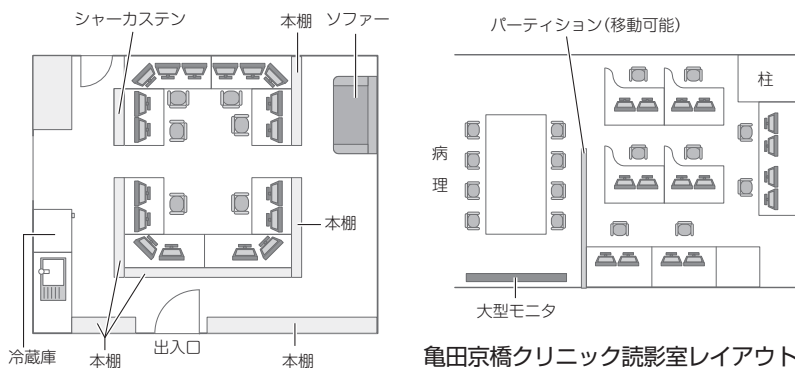
[第11回] 亀田総合病院/亀田京橋クリニック

山下 航 亀田総合病院 放射線診断科



本院読影室

パーティションではなく本棚で空間を区切り、限られた空間の活用をしている。血管造影室にも近く、必要があればすぐに駆けつけることができる。



本院読影室レイアウト

亀田京橋クリニック読影室レイアウト

DATA

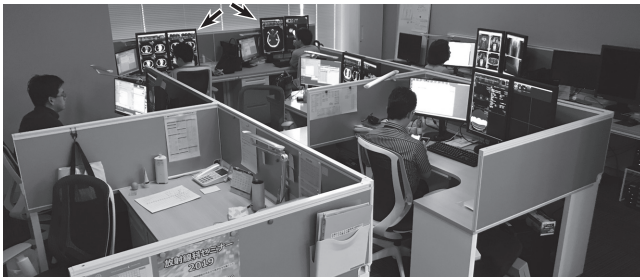
場所：本院1階、クリニック3階、
京橋クリニック6階、
幕張クリニック2階
PACS：IBM, FUJIFILM
レポートシステム：IBM
電子カルテシステム：IBM
スタッフ数：
放射線診断専門医数：5
放射線治療専門医数：1
PET認定医数：1
乳腺専門医数：1

亀田グループは千葉県鴨川市に本院と亀田クリニック、千葉県幕張市に検診を主に行う亀田総合病院附属幕張クリニック、東京都中央区に主に経過観察を行う亀田京橋クリニックのほか、多数の関連病院で成り立っている。今回は本院および亀田京橋クリニックの読影室を紹介する。

本院の読影室は1階の検査室付近にあり、本棚に囲まれた空間に円を描くように外を向いて端末が配置されており、互いの空間に配慮しながら必要なときはすぐに質問できるようになっている。

京橋クリニックは2018年8月拡張リニューアルの際、臨床病理科との合同診断室が開設された。読影スペースはパーティションがほどよく空間を区切っている。

端末はすべてインターネットに接続されており、調べ物がすぐに行えるほか、Office365を用いてデータの共有や事務からの至急読影依頼を受けられるなど、物理的に遠い読影室同士での連携を図っている。また、電子カルテはレポート記載画面から直接呼び出すことが可能であり、読影業務の効率化に寄与している。



亀田京橋クリニック読影室

本院よりも空間にゆとりがある分、読影ブースが多い。窓際の2台は関連病院である安房地域医療センターの読影端末(↑)。



ダイアテック社製キーボード：Majestouch

なんの変哲もないキーボードのなかに、疲れを軽減する技術が詰まっている。

これが自慢!

自宅勤務、遠隔画像診断

当科最大の特徴は、遠隔読影を行える体制が充実していることである。

子育て中など、一部の先生方には自宅勤務を導入している。また、遠隔読影業務に携わる先生が多いのも特徴である。放射線科医の常勤が勤務しているのは本院、亀田京橋クリニック、亀田幕張クリニックだが、検診も含めると毎日膨大な量の検査が行われている。必要な読影を行うには物理的な人数が足りないため、遠くは九州からも読影業務に協力いただいている。

部長や筆者は本院と亀田京橋クリニックを行き来しながら、現場での調整も行っている。昨年からは画像診断管理加算2を本院で取得、読影率の向上とともに臨床科との連携に努めている。

また、亀田グループ外の関連施設の遠隔読影も行っている。

病理診断科との連携

病理診断科との連携が強いのも1つの特徴である。亀田京橋クリニックでは読影室の横に病理診断科の部屋が地続きとなっており、病理診断科でも遠隔診断を行っている。また、各病院間でビデオ通話が可能となっており、それぞれのデスクトップを相手に提示することも可能である。これらの特徴を生かして、毎週放射線病理カンファレンス(RPカンファ)が行われている。放射線科医から病理医へ、病理医から放射線科医へ、組織型、画像への疑問点を出し、新たな知見を得る有効な手がかりとなっている。病理と放射線が真横に接しているという配置は、非常に珍しいと思われる。

こだわりグッズ

「これだ!」と言えるものとしては、京橋クリニックの読影室リニューアル時にそろえていただいたキーボード(ダイアテック社のMajestouch)である。タッチが軽く、長時間タイピングしても疲れない。

読影医に必要なものは、よい机、よい椅子、よいPC、よい入力機器である。

読影医の先生方はそれぞれこだわりがあると思うが、予算のつく範囲内でよいものを、と筆者が提案させていただいた。おおむね好評をいただいております、“ホッ”としている。



あなたの読影室、紹介してみませんか?

各施設において、読影環境を整えるためにさまざまな工夫がなされていることと思います。「配置」「空間」「照明」など、皆さまのこだわりをぜひご紹介ください! ご応募については下記までお問い合わせください。

clinimage@medicalview.co.jp

※掲載の可否につきましては、編集部にて判断させていただきます。あらかじめご了承ください。